

乙 頁

お と さ だ

第52号 通巻10巻第2号
1990年9月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

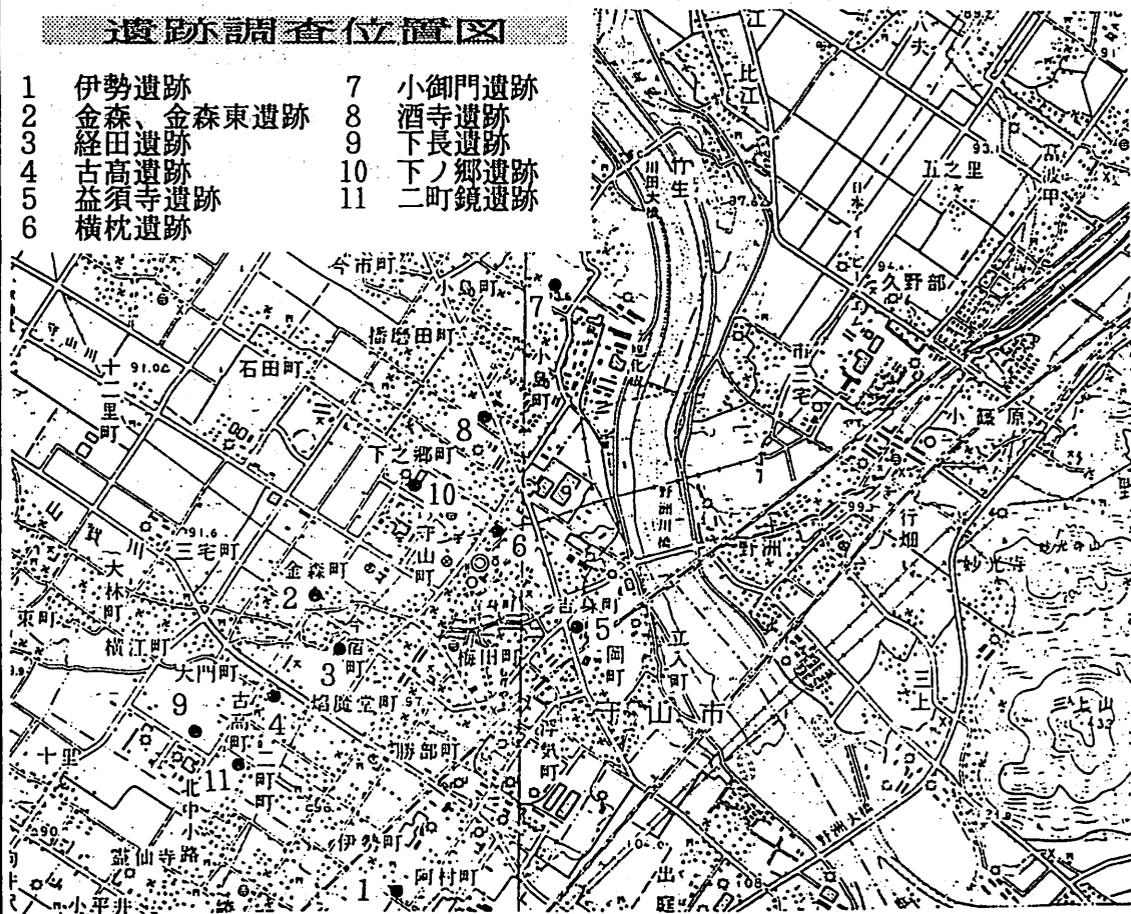
☆ はじめに ☆

ミンミン、ワシワシと夏を盛りたてた虫たちもどこにやら、昼はツクツクホーシ、ツクツクホーシ、夜はリリリン リリリンと虫たちが暑さを癒^{いや}してくれています。かくて8月は日照り猛暑続き、埋蔵文化財調査は担当者全員フル可動、皆でコゲ具合を比較競争している次第です。

ここに市内各所で展開したこの夏の調査動向と今後の予定をお知らせします。

遺跡調査位置図

- | | |
|------------|----------|
| 1 伊勢遺跡 | 7 小御門遺跡 |
| 2 金森、金森東遺跡 | 8 酒寺遺跡 |
| 3 経田遺跡 | 9 下長遺跡 |
| 4 古高遺跡 | 10 下ノ郷遺跡 |
| 5 益須寺遺跡 | 11 二町鏡遺跡 |
| 6 横枕遺跡 | |



☆ 発掘調査だより ☆

調査終了

1, 伊勢遺跡

調査地. 守山市伊勢町字中東浦 81-1

調査期間. 6月28日 ~ 8月8日

調査面積. 700 m²

調査実施の理由. 倉庫建設

調査概要.

調査地は小面積でしたが、弥生時代後期の^{やよい}竪穴式住居跡8棟、^{たてあなしきじゆうきよ}掘立柱建物跡^{ほったてばしらたてもの}2棟、溝等が検出され、大量の弥生式土器が出土しました。竪穴式住居跡はすべて方形のかたちをしており、一辺が4~7mを測る規模のものです。竪穴式住居は2~3回の建て替えのため重なっており、一定の時間幅をもった集落遺跡とみられます。掘立柱建物跡の1棟は^{つかばしら}東柱と^{むなもちばしら}棟持柱を備えており倉庫とみられます。溝は住居や建物の南辺を通り、^{くつきよく}屈曲し、旧河道へと流れ込んでいくものです。溝内より出土した土器の年代は竪穴式住居と同じ後期後半代のものです。

まとめ.

竪穴式住居跡は、重なり具合から一定の時間幅がみこまれること、集落内に倉庫がみられること、など弥生時代後期後半の集落の様子がわずかながら判明しました。今後、出土した土器の検討を含め、問題を深めていきたいと考えています。

(伴野)

2, ^{かねがもりひがし}金森東遺跡、^{かねがもり}金森遺跡

調査地. 守山市金森町字東町

調査期間. 6月11日 ~ 8月末日

調査面積. 1800 m²

調査実施の理由. 都市計画道路古高一川田線道路改良に伴う調査

調査概要.

全体に遺構が希薄で、古墳時代前期の溝、ピット、土壌が若干検出されただけでし

た。金森遺跡では幅1～2 m、深さ0、4 mの溝が東西方向に検出され、内から古式土師器が若干出土しています。この溝の内側に径60 cmの土壇が一基、平安時代以降のピット、浅い土壇がみつかりました。

金森東遺跡では南へ進む程、遺構が希薄となり、北側で古墳時代前期の溝2条、土壇、ピットをわずかに検出するにとどまりました。

まとめ。

金森東遺跡の範囲の南限は山柿団地の南約40 mであったと考えられ、また金森遺跡も県道から北へ約20 m程であることがわかった。

(山崎)

3. 経田遺跡

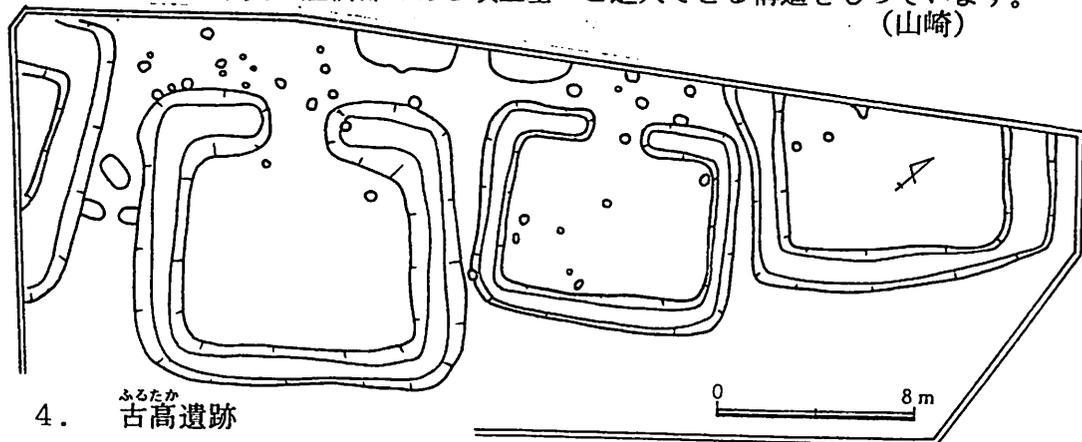
調査地. 守山市今宿町字経田
調査期間. 6月6日 ～ 8月10日
調査面積. 2900 m²
調査実施の理由. 民間による宅地造成の事前調査
調査概要.

調査地を1、2に分け、1については前号で概要を報告しました。今回は2について概略を述べます。現調査地点は昭和61年に調査された地点の東側隣接地に位置し先の調査で検出されていた方形周溝墓(低墳丘墓)6基が連続して検出されました。このうち2基は西側の辺の中央に陸橋部をもつものです。規模は一辺9～12 mの長方形で溝は重複せず、それぞれが単独で並んでいます。時期は古墳時代前期で供献土器は少なく、器台、壺の破片が若干出土しているだけです。また、同一検出面で古墳時代後期の掘立柱建物が二棟検出されていて東西棟と考えられます。なお、方形周溝墓検出時にベース面に多量の炭化物を含んだ箇所が数箇所認められ、一箇所だけで土壇状の落ち込みを確認しました。他は平面、深さとも不明瞭でした。下層の確認も行ないましたが縄文時代の遺構は不明です。

まとめ。

方形周溝墓(低墳丘墓)は南西から北東方向に二列に並んでいて、中央に墓道がある

り、この道から中央に陸橋部のある墳丘墓へと進入できる構造をもっています。
(山崎)



4. ^{ふるたか}古高遺跡

調査地. 古高町字西円前
調査期間. 8月2日 ~ 8月7日
調査面積. 400 m²
調査実施の理由. 個人住宅造成の事前調査
調査概要.

調査の結果、溝1条、土壙1基、ピット1穴を検出した。いずれも古墳時代の包含層直下から掘込まれているので、古墳時代もしくはそれ以前の年代が考えられます。遺物は包含層から土師器、須恵器の破片が少量出土しただけです。今回の調査地は遺構が希薄なことから古墳時代の集落の縁辺にあたるものと考えられます。
(宮下)

5. ^{やすでら}益須寺遺跡

調査地. 守山市吉身5丁目99
調査期間. 5月7日 ~ 7月31日
調査面積. 2400 m²
調査実施の理由. 営業用倉庫にともなう事前調査
調査概要.

8~11世紀にかけての集落を検出したが、その中心は9~10世紀頃とみられ、相当数の建物が復元できます。このほか、8世紀頃の竪穴住居が一棟検出されており注目されます。

まとめ。

今回検出した9～10世紀頃の集落は西側約200mの地点でも検出されています。竪穴住居は、長辺4,2m×短辺3,4mの長方形を呈し、竈^{かまど}が付設されています。8世紀代の竪穴住居は市内で3例目でいずれも益須寺遺跡内で発見されています。市内ではこの時期すでに掘立柱建物に転換しており竪穴住居に住まいした人間の身分等を考えるうえで興味深い遺構です。

(宮下)

6, ^{よこまくら}横枕遺跡

調査地. 守山町字南百ヶ町74-4
調査期間. 8月2日～3日
調査面積. 165 m²
調査実施の理由. 個人住宅建設に伴う事前調査
調査概要.

建設予定地全体を対象としましたが、残土の置場の制約から、当初の東半分を実施しました。地山である黄褐色粘土上で精査を行なったところ、東よりでわずかに遺構が確認されたため、掘削位置を北半分に移し遺構の検出に努めました。結果はピット8穴と土壇2基が見つかりました。遺物は、ほとんど出土しませんでした。

まとめ。

今回の調査では、わずかな遺構の検出にとどまり、また出土遺物も少なく小片であったため、時期や性格はわかりませんでした。しかし調査地の東隣りで昭和62年に調査が実施され弥生時代中期末の竪穴住居が6棟みつかり、また南隣で昨年調査を実施した結果、やはり中期末の土壇が検出されていることからすると、今回の遺構も同時期と考えて良いと思われます。

(畑本)

調査地

7, ^{こみかど}小御門遺跡

調査地. 守山市川田町
調査期間. 8月13日 ～ 12月6日 予定

調査面積. 3 0 7 8 m²

調査実施の理由. 都市計画街路古高一川田線改良工事

調査概略. 発掘調査は車道部分にあたる1.1mの幅で延長17.1mを対象としています。距離

が長いので、全体を6区の調査区に分け、残土処理の関係から、第2区より着手しました。これまでに、表土下約40cmのところ、調査区を横断するように細かい砂で埋まった幅の狭い溝状遺構が等間隔でみつかりました。この溝状遺構は、わずか1cm程の深さしかなく畑の畝の間の溝かと考えられます。

(畑本)

8, ^{さかでら}酒寺遺跡

調査地. 守山市播磨田町地先

調査期間. 7月2日 ~ 平成3年2月末日

調査面積. 1 3 0 0 0 m²

調査実施の理由. 土地区画整理事業に伴う調査

調査概要.

現在、耕土を重機により除去している段階で、遺構の検出作業はまだ始めていません。しかし試掘調査の結果から、弥生時代後期の土壇、溝、竪穴住居の存在が予想されています。調査が進み次第報告していきたいと思います。

(伴野)

9, ^{しもなが}下長遺跡

調査地. 守山市古高町字北八重外

調査期間. 平成2年4月~9月30日 予定

調査面積. 約 1 3 0 0 0 m²

調査実施の理由. 工業団地造成にともなう事前調査

調査概要.

今回の下長遺跡の調査対象地には、幅50m、深さ2m程の埋没した旧河道が中央を流れていたことがこれまでに明らかになっています。現在調査しているのは、この旧河道の左岸^{びこうち}微高地上に立地する集落遺構と旧河道内に埋没している水田跡遺構とが

あります。旧河道左岸の集落跡調査地は、昨年度に調査した古墳時代初頭の竪穴式住居群の隣接区にあたります。今回も同時期の竪穴式住居跡一棟と掘立柱建物群、溝等を検出しています。見つかった竪穴式住居跡は、一辺が約6 mの正方形を呈しておりまわりには幅50 cm、深さ40 cm程の溝状遺構が円弧状に巡らされています。旧河道内の埋没水田跡の調査では、現耕作土直下から河床までおよそ2 mの間に4面程の水田跡が確認されました。上層の2面は幅60 cm程の畦畔がみつきり、現状の地割りにほぼ並行して走る大区画のものです。3面目の水田跡は、きめの細かな粘土をその耕作土としており不定形、小区画の畦畔からなっています。4面目の水田跡は上の3面とは性格を異にしており、耕作土は、植物遺体によつて構成される有機質土で畦畔状の施設として水田面に細い丸太や割り材が渡してあります。この水田はたいへん湿潤な湿田だったことが想像され、床土からは木製農耕具が廃棄されたかたちで見つっています。これらの水田跡の詳細な時期については現段階では不明ですが、下層の2面については古墳時代前期～中期にさかのぼるものとおもわれます。

(川畑)

10. 下ノ郷遺跡 / 吉身西遺跡

調査地. 守山市下ノ郷町708

調査期間. 8月23日 ~ 10月20日 予定

調査面積. 2000 m²

調査実施の理由. 民間の工場増設

調査概要.

今回の下ノ郷遺跡の調査は第14次にあたり、吉身西遺跡は第38次にあたります8月に着手したのは吉身西遺跡で、弥生時代中期の環濠集落の外側約100 mに位置し、古墳時代の集落が予想されました。現在調査中ですが古墳時代前期の大溝(幅3~4 m、深さ1.5 m)1条、同期の溝(幅1 m、深さ0.5 m)奈良時代の大溝(幅7深さ1 m)が検出しています。古墳時代の大溝の底には多量の土器が流れ込んでおり延長約15 mの中でコンテナ10箱を超える量が出土しました。これらの土器のほか縄文時代の石斧1点、石鏃3点、弥生時代の磨製石鏃2点、碧玉製管玉(径2 mm、長

0,8cm) 1点、^{かっせきせいぼうすいしや}滑石製紡錘車1点があります。また別のトレンチからは古墳時代の方形の竪穴式住居跡1棟、溝2条が検出しています。

まとめ。

環濠の外側ですが、弥生時代の石器や^{そうしんぐ}装身具が出土しており、南から北へ流れる水路の関係からあるいは戦闘状態があつて、環濠の内側から外に向かって矢を射た可能性があり、弥生時代の社会の復元に興味もたれます。古墳時代の出土遺物は多く、これらを使った人々の住居地域の確認が待たれます。

(山崎)

11. ^{ふたまちかがみ}二町鏡遺跡

調査地。 二町町字南平188
調査期間。 8月20日 ~ 9月24日 予定
調査面積。 1600 m²
調査実施の理由。 二町一播磨田線道路改良に伴う事前調査

調査概要。

二町町集落の西側の水田地を8月20日から調査しています。調査対象面積は全体で約3400m²ですが、今回はそのうち約1600m²について9月末までの期間を予定しています。試掘調査では室町時代頃の遺構や遺物が確認されているので、調査が進めば、この時期に二町町付近に存在した集落の実態が明らかになってくるものと思われれます。

(宮下)

【編集後期】

土のなかに^{うづ}埋もれた様々な遺跡は、考古学の手法や科学の方法により客観的な立場から様々な意味が付与されていきます。それは時には、地域環境の復元が試みられたり、古代社会の構造を解明したり、現代の社会問題と密接に関係するテーマについて何らかのかたちで^{しき}示唆を与えてくれたりもします。時間に追われ乾燥した現代に生きる私たちは、古代人たちの^{ほうじょう}豊饒な生活に安らぎを感じたり、同じように土に^{かえ}還っていく自己を延長線上におき同情や共感、非情といった感情のもと想像の物語をこころのなかにふくらませたりもします。

(k記)